



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

大阪大司教の任命

教皇フランシスコは、ローマ時間8月20日正午、池長 潤大司教の定年による教区長辞任願いを受理し、後任の大司教として、広島教区の前田万葉司教を任命した。着座式は9月23日午後2時、大阪明星学園にて。

日本カトリック平和旬間2014〜長崎〜

明日へつなごう 平和の願い

を合わせて祈りをささげようと、広島教区カテドラル・世界平和記念聖堂(幟町教会)でのミサと同じ時間に同じ典礼で、毎年実施されているもの。広島原爆投下時刻の8時15分には全員で黙とう。説教の終わりに中演師は、「主の平和が私たちの中に豊かにあるように、その願いを込めて」祈るよう招いた。

第42回 原爆殉難者慰霊祭

8月8日(金)午後7時から、長崎県宗教者懇話会(会長野下千年師)主催による第42回原爆殉難者慰霊祭が、仏教系、神道系、キリスト教系、そしてイスラームのそれぞれの法衣をまとった宗教者および多くの市民が参集する中、原爆落下中心地公園(長崎市松山町)で行われた。今年では式典に先立ち午後6時



被爆マリア像(平和祈願祭)

から、能舞「地の心」の特別公演があった。諏訪神社で1999年に奉納された「諏訪」と2005年に浦上教会で初演された「長崎の聖母」の舞

が、能独特の囃子の響きの中で舞われ、慰霊の空間を演出した。引き続き、トルコのイスラームの祈りの舞と平和の祈りもささげられた。

高見三明大司教と共に、教皇庁諸宗教対話評議会次官補のインドゥニル・カンカナマラゲ師も参列し、平和を構築する宗教者の使命と義務を訴えた。式典の終わりに、野下師作詞作曲の「長崎の祈り」を全員で合唱し、長崎からの平和への思いを新たに

した。初めて式典に参列した女性信徒は「もつと小規模の集会をイメージしていたが、長崎を題材とした能やイスラームの祈りなど、内容の豊かさに驚いた。多くの若者の参加もあり、長崎の慰霊と平和への思いの力強さを感じた」と感想を語った。

平和祈願祭

原爆が投下されて69年目となる8月9日(土)、平和祈願祭 教区・同実行委員会主催)が「明日へつなごう 平和の願い」をテーマに、浦上教会で開催された。

木鉢小教区(主任工藤秀晃師)で7月27日(日)と敷地を利用。駐車場の整備、バリアフリー化などの改修工事を終え、当日を迎えた。久志師は説教の中で「皆さんの祈りの場であるように、また有効的に利用されるように」と語った。

祈りの場がまたひとつ

木鉢・小瀬戸集会所祝福式



木鉢・小瀬戸集会所祝福式 園保育所の移転に伴い、教区が無償で譲り受けた建物と敷地を利用。駐車場の整備、バリアフリー化などの改修工事を終え、当日を迎えた。久志師は説教の中で「皆さんの祈りの場であるように、また有効的に利用されるように」と語った。

にあるため、高齢者らが教会に通うには困難を伴うことがあった。集会所設置によって、ミサをはじめ必要に応じて通夜なども行われるようになり、利便性の向上が期待される。

0人が被昇天の聖母に取り次ぎをお願い祈った。佐世保での若者の悲しい事件や集団的自衛権の閣議決定、平和を脅かす出来事が続く中、終戦記念日を迎えて祈る人たちの思いが一つになった。

西海市民混声合唱団「ハーモニー 西海」や聖和女子高校の生徒によるコーラスから始まり、続いて古巣 馨師(大司教館)の講演「まいたオナジを告白するために」が行われた。参加者の一人は、「家庭での祈り・信仰教育・ミサを大切に、福音の喜びのために出向いていく教会メンバーの一人になれるよう努めたい」と決意を語った。

聖母平和祈願祭

大雨警報が発表された8月15日(金)、アルカスSASEBOを会場に聖母平和祈願祭(佐世保地区評議会主催)が行われ、約1000



葛嶋秀信師(佐世保地区長・相浦教会主任)主司式によるミサでは、千羽鶴や祈りの短冊など、平和の賜物を神に願う捧げ物が祭壇に供えられた。説教を担当した中村倫明師(三浦町教会主任)は、「イエスさまのやり方に倣って、平和のために両手をつなぐよう出向いていきましょう」と呼び掛けた。

教区シノドス 第2会期

「長崎教区は今のままでもいいのだろうか?」この問い掛けに答えるべくスタートした教区シノドス(教区代表者会議)。その第2会期が長崎大司教館を会場に、7月20日と21日の2日間にわたって開催された。今回は5つのグループに分かれての分団会形式で行われ、「教区の刷新のためにどの提言案が重要か」について話し合われた。

「教区の刷新のためにどの提言案が重要か」について話し合われた。その中でこの提言案⑩は、言案⑪「いのちへの奉仕」に組み込まれていた。大事なテーマだから元通り独立させ、内容も具体的な意見も多数あった。

会を離れている信徒への配慮」の重要性(提言案⑩については本紙5月号と8月号参照)。5月に行われた第1会期とその後、シノドス中央委員会では提言案の修正を行い、第2会期前にシノドス議員に配布していたが、その中でこの提言案⑩は、言案⑪「いのちへの奉仕」に組み込まれていた。大事なテーマだから元通り独立させ、内容も具体的な意見も多数あった。



そのためには、提言案①「司祭の霊的刷新と生涯養成」が不可欠であるが、司祭のみならず信徒

も霊性を深め、生涯養成を行うことが必要との声も多く聞かれた。提言案の詳細については、第3会期(9月14日、15日)の結論も踏まえ、本紙11月号に掲載される予定。

信徒発見150周年に向けて、先祖から「大切なもの」として受け継いできた信仰を、現在でも未来でも花咲かせることができるよう、皆が一つになって歩むことが求められている。



激論が交わされることだろう。おばあさんが納得できるシノドスの実りを祈っている。(F・O)

★ほしかげ★

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい⑦

果たして若者は 教会離れをしているのだろうか

―日本教会への提言―

「望洋庵」庵主 溝部 脩

序

何となくしょぼんとしているなというのが、日本の教会かなと思つています。夫々が頑張っているし、信者が社会の隅々にまで入って働いているのですが、少し背伸びしているくらいかな。社会へのメッセージとか、人権擁護とか、めまぐるしい世間の動きにも敏感に反応しようとの試みをたくさん行っています。カトリックの教育施設も福祉施設も困難な時代に立ち向かっているし、小教区も教区も再編成とか、共同宣教または協力宣教で、教会の新しいあり方を模索しています。修道会も何とか立ち上ろうともがいている感があります。それでも、全体として何となく元気がない、これは私だけの印象でしょうか。元氣を取り戻すために、外国から助っ人と呼んだり、新しい運動を取り入れたりといった試みも行っていますが、これらもいまひとつ、パンチの効いた特効薬にはなっていない。

1 司教を退任して考えたこと

2年前、私は退任届けが聞き入れられて、司教の仕事から解放されました。それから1年近く、小さな高知教会で過ごしました。その間考えたことは、私の余生をどう生きるかということでした。まだ体力も氣力もあるし、晴耕雨読の生活では飽きてしまうのがおちという想いがあつたからです。もし働くとすれば、私が持っているタレントを活かした活動を日本教会のために行いたいということでした。日本教会への奉仕といつても漠然としたものではつまらないし、やはり何か目標を定めることが先決でした。幸いに、私は司祭になって50年間、1年も休むことなく、青少年とかかわる仕事をしてきました。司教になつてからも青年から遠ざかることはありませんでした。青年が好きだから私がするのだと評する人たちがいますが、私はそうは思っていない。自分の使命だと考えているからです。

2 京都「望洋庵」設立

青年を育てるといっても、華々しい活動を展開する年齢ではありません。はや80を目前にしているのですから、年齢に合った活動を考えなければなりません。この年齢で、しかも今までの経験を活かす方法といえば、ゆつたりとした環境で一人一人の青年と出会うことでした。何よりも、教会の中に若者不在という不信感を取り除くことでした。それやこれやを考へて、京都の司教の同意もあり、日本の中心部にありながらも、都会の喧騒とは一つ隔てた壁を持つ京都に居を構えることにしました。幸いに今は空き家になっている司祭不在の教会が多く見受けられます。私が基準とした家探しの原則は次のようなものでした。

家庭的な雰囲気が出される家であること。敷居の高い家は望みません。幸いに築108年の純和風の司祭館を大塚司教が提供し

高知で考えて、落ち着いた考えは、青年司牧の集大成をしようということでした。

考えてみると、教会がしょぼりしているのは、若い人がいないからです。私が洗礼を受けた頃は、若い人がひしめいていて、活気が溢れていました。活気が溢れていると何でもできます。活気が溢れて、若者が生き生きとしている教会からは、また若々しい次の時代の担い手が生まれてきます。私は司祭になった初めの頃、最初に赴任した教会で、若者がいない、司祭になる人がいないといった類いのつぶやきをたくさん聞きました。50年たつて、また同じことを聞いているのです。もういい加減にしてほしい、今はばやく代わりに立ち上がつて、青少年と歩む時が来ているのではないかと焦りにも似た怒りに駆られたものでした。

てくれました。もちろん世にいうところの快適な生活の場所ではありません。住みやすくするために多くの工夫が必要でした。その工夫こそ私の活動の原点となりました。工夫してつくりだす、今の教会に必要なのは、この創造性、柔軟な発想なのではない。発想を少し変えたら、きっと若者は寄つてくるはずだ。

次に私が求めたのは、黙想できる小聖堂です。和風の部屋が倉庫になつていたので、古いカーペットを外したら、立派な昔の板張りの床が出てきました。こんな時には、子供の頃いやいやながらやらされた床掃除が役に立ちました。黒ずんだ床を洗い落とし、米ぬかで磨いていくと見事な光沢を発するようになりました。後は、低い椅子を周囲に置くことで、昔ながらの家庭教会(Domus Ecclesiae)が生まれました。京都の司教座聖堂の責任者、花井神父が椅子に合った祭壇を寄附してくれて完成です。後は漆塗り似た聖櫃を司教が提供してくれて、そのそばには、仙台以来の腹心の青年がステンドグラスで見事に聖堂を飾ってくれました。

青年が寄つてくることで満足してはいけません。祈りたいという気持ちを青年の多くは持っています。「望洋庵」は、青年が祈る場所として開かれています。「望洋庵」は何のためにあるのか、何人いるのかなどの質問を受けますが、私は、「庵は祈るためにある」と答えています。祈る喜びを知った

青年たちは、必ず教会に奉仕することを考えます。最後に、どうしても整えなかったのが、炊事場と食卓です。食事を一緒につくり、一緒にいただく、これは大きな喜びをもたらします。初代教会はきつと食卓を囲むことを大事にしたはずで、食卓そのものが、イエスさまの体をいただく場所になつたのですから。食事はなるべく簡素で、そして温かいものが良い。多くの場合、食卓がキャンドル・サービスの場になり、就寝の祈りの場となるのです。

3 庵を組んで思うこと

「望洋庵」に望んでいることは、祈りがある住まいであり、一緒に食事をし、人の温かさを味わえる家です。その中で、二人一人の青年が、自分の人生に与えられた神さまからの使命に目覚めていけばよいのです。

3 庵を組んで思うこと

「望洋庵」を建てて、はや一年半の歳月が流れました。多くの若者がこの貧相な家を通つていきました。夫々の思いでやつて来ては、何かをつかんで去つて行きました。私たちは、誰が来ようとも、夕の祈りを一緒にしていま

で沈黙の中に過します。ローソクに火を灯して、香をたきます。それが終わると、今黙想した箇所を分かち合います。夫々の感覚で読んでるので、他の人が話すのを聞くのはとても良いことです。それから歌を歌つて、食事に行きます。食事については先に述べた通りです。楽しい食事になるために、知人と呼んで、一品増やしたりします。翌朝、私は自分の所とか、女子修道院とかでミサをたてます。宿泊した人たちは、必ずといっていいほど、ミサにあずかります。私がそれを強制することはありません。しかし、あずからないで帰った人は、ごく稀な例外を除いて全くなりません。

教会には若い力が必要です。若い人たちは、教会が自分の持つている宝、活力を分けてもらえるのを待つています。けちらないで、彼らにあげることにしませんか。教会が持つていて使わない家を、空き室をもつともっと有効活用すればどうでしょうか。もっと若い人たちのために、お金の工夫をしたらどうでしょうか。若い人を育てている人たちの援助したらどうでしょうか。「望洋庵」のような家が日本全国に広がって、青年が全国から雨後の筍のように伸びてくれば、教会は見事に生き返るのではないのでしょうか。

完成まであと半年

聖トマス西と十五殉教者記念庭園



日本の信徒発見150周年記念事業として始まった「聖トマス西と十五殉教者記念庭園整備事業」。中町教会境内の庭

園予定地では、昨年9月29日に起工式が行われ、記念碑を乗せる土台と聖像を置く16の基礎ができています。年末までに石組みと植栽を終え、年明け2月までに記念碑と聖像を設置、3月16日(月)に祝福式を執り行う予定。

聖像の制作も順調に進んでいる。彫刻家池田宗弘氏(下段の写真)は長野県東筑摩郡麻績村にあるアトリエで、残り3体の原型と記念碑の制作に取り組んでいる。富山県高岡市にある鑄造会社「嶋安」の作業場には、鑄造を終えた11体と、鑄造

を待つ2体の原型が置かれていて、殉教者の存在は200年の長きにわたって潜伏キリシタンたちを励まし、ついには信徒発見へと導いた。この9月28日(日)午後2時から中町の教会で行われる「聖トマス西と十五殉教者ミサ」を通して殉教者に思いを馳せ、あと半年と迫った「日本の信徒発見150周年」を迎える準備をしたい。なお教区では引き続き、この記念事業のための祈りと献金を呼び掛けている。



「司教」で企画推進を担当する野下千年師(教区エキュメニズム・諸宗教委員長)は次のように話している。「教区の皆様のお祈りとご支援に心から感謝します。昨年と今年、2回の殉教記念ミサで集まった献金は、この事業のために充てられることになっていきます。さらなるご理解とご協力をお願いいたします。二十六聖人の顕彰は以前からなされ、知名度も高く公式巡礼所の指定もされていますが、十六聖人の顕彰はあまり目立たない感じがします。平和の巡礼者として西坂を訪れたヨハネ・パウロ2世がその6年後の1987年10月18日、バチカンで列聖式を行い、松永久次郎司教を団長とする長崎からの巡礼団80人、一緒だった私は今も当時のことを生き生きとした思い出と感動のまま記憶しています。記念庭園完成の日を皆さんと共に祈りたいと思います。また、今もなお制作に打ち込む池田宗弘さんのご健康のためにも合わせてお祈りください」

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

石 碑
納 骨 堂
墓地工事
墓地分譲
(高尾・本原他)

なが さき せき ちよう
長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送
も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)847-7151

844-1420

貨物保険有り
・一般引越
・荒ゴミ捨て
・学生引越

・小荷物
・遠距離
・ピアノ運搬

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

☎長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8488

聖マリア学院 幼稚園・保育園・小学校
平成27年度 園児・児童募集!

Love to Learn and Learn to Love

《幼稚園》
★随時募集受付

《小学校》
★随時募集受付

★入学試験 11月8日(土)

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

★随時募集受付

教区平和推進委員会 平和旬間関連行事

高校生8人が沖縄で平和学習



司教館で
押川司教
直々に語
られる沖縄戦の様子
に、参加者とスタッフ
は言葉も失った様子
だった。

過去の沖縄戦につい
て少しでも理解するた
めに、「ひめゆり学徒
隊」の足跡と「対馬丸
記念館」などを訪ねた。
ひめゆり学徒隊が実際
に働いた、病院とは名
ばかりの南風原壕群20
号やアブチラガマ(糸
数壕)では、中に入り当
時を思った。

7月31日(木)から8
月3日(日)まで、高見
三司教を団長に教区
内の8人の高校生が、平
和学習のために沖縄を訪
問した。2011年以降
毎年行われ、今年で4回
目を数える。

まず一行は那覇教区の
押川司教を表敬訪問し
た。激戦の地に建つ

いのちの歌・いのちのお話の集い

教会ボランティア・センターの取り組み

7月13日(日)、福江教
会において下五島地区教
会ボランティア・セン
ター主催、地区家庭特別
委員会協力による「いの
ちの歌・いのちのお話」
の集いが行われた。



1部はコール・アン
ジェラス(お告げのマリ
ア修道会有志グループ)
による「いのちの歌」を
聴き、続く2部では酒井
孝子氏(深堀教会所属・
鹿児島純心大学特別講師
II写真II)、竹内裕貴子氏
(中町教会所属)による

「命の尊厳ーお互いに愛
し合うためにー」と題し
て講演会が行われた。
下五島地区における教

て考えた。

高校生らに
とって、実際に
現地を体験する
ことで、美しい
自然に開かれた

沖縄が過去にどのような
歴史を歩んできたのか、
また、現在どのような問
題があるのかを探索し、
平和を実現するために何
を考え行動しなければな
らないかを黙想する旅と
なった。

NAGASAKI 平和を願うコンサート

来てほしい」といっ
たうれしい言葉を
いただきました。
コンサートの流

「NAGASAKI 平
和を願うコンサート」が
田平教会(主任岩村知彦
師・平和推進委員長)で
8月10日に開催され、出
演者200人余と130
人ほどの皆さんが集まっ
てくださいました。終了
後は、たくさんの方々から
「素晴らしいコンサート」
「素晴らしい演奏」

広島ピース・スタディー

いる祈りの集い
と平和行進、平
和祈願ミサに参
加した。東京や大阪、地
元広島の元気な若者と共
に祈り行動することが、



長崎の子どもたちにとつ
て大きな刺激になったよ
うだった。
2日目は原爆投下の時
刻に合わせてさざげられ
る、原爆・すべての戦争
犠牲者追悼ミサに参列。
世界平和記念聖堂(広島
教区カテドラル・職町教
会)の前では、9・11テ
ロの際に犠牲となった
方々の遺族によるモニユ
メントの説明を、高見大
司教が行った。また、1
88福者に列せられてい
るフランシスコ遠山甚太
郎らの殉教地を訪れ、祈
りをささげた(写真)。

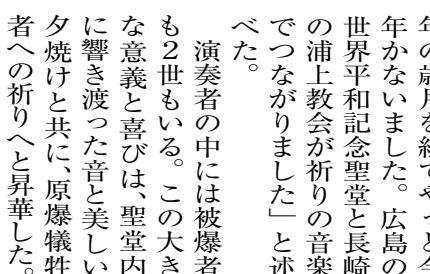
会の福祉活動促進のため
に、今年5月に発足した
教会ボランティア・セン
ターは、教区福祉委員会
が2年前から計画して
きた、教区における未来
の「ボランティア・ネッ
トワーク」作りのモデル
ケースとなるものであ
る。最初の企画となつた
今回の集いは、センター
設立の目的と意義の周知
をはかるとともに、信仰
者として命への視点を深
めることを目的として開
催された。

教会はキリストの姿を
追い、その背丈に達する
ことを目指している。キ
リストが祈り(典礼)、教

え(信仰教育)、弟子を招
き(召命、福音を語り福
音宣教)、そして悩み苦し
む人々を活かす(愛の業)
姿を現実の教会の姿に重
ね合わせると、どこが重
なりどこが未だ重ならず
にあるかを確認すること
ができる。

教会と福祉の関連につ
いて戸惑う人々もいる。
「福祉」というと、まず
「社会福祉」としての諸
制度と諸活動を思い浮か
べる。そのために、福祉
は行政の役割、福祉施設
は行政の一部、専門的グ
ループの任務と思われる
のである。
しかし「福祉」と「社

会福祉」は同じではない。
福祉とは「人々の幸いを
求める」という理念のこ
とであり、社会福祉とは
その理念を実現させるた
めの方法と道筋のこと
である。
したがって教会におけ
る福祉とは、キリストが
人々の幸いのために生き
た(福祉)あの姿を、神の
愛と憐れみをもって行う
という教会特有の方法と
道筋で行うものである。
教会ボランティア・セ
ンターでは現在、音訳者
の養成を行っている。視
覚障がい者、または高齢
による視覚困難な方々の
ために声の奉仕ができる



ことを目指している。キ
リストのように目を開く
奇跡を行うことはできな
いが、このような奉仕に
よって、悩み苦しむ人々
の心の眼が開かれ、教会
を通して神の愛と憐れみ
を実感していただければ
と願っている。
教会の未来のためにキ
リストという原点に返
り、また日本の初代教会
が愛の奉仕に生きたミゼ
リコルディアの組に倣
い、命への憐れみの視点
を取り戻すことができた
らと思っている。

教区福祉委員会
委員長 岩崎晋吾

浦上で原爆犠牲者のための スピリチュアルコンサート

8月8日、浦上教会に
おいて「原爆犠牲者のた
めのスピリチュアルコン
サート」が、エリザベト
音楽大学同窓会フォー
レ・レクイエム実行委員
会によって開催された。
エルネスト・ゴッセン
ス師によって創立された
エリザベト音楽大学(広
島市)は1947年、原
爆で荒廃した広島の人々
を音楽で元気づけるため
の小屋から始まった。54
年8月6日、同敷地内に
建てられた「世界平和記
念聖堂」の献堂式のた
め、ゴッセンス師が最も
ふさわしいとして選曲し
たのが、フォーレ作曲の
レクイエム。同師はこの

とき「忘れないでくださ
い。これは祈りの演奏で
す」と語ったという。
実行委員の升田裕子さ
んは「今も私たちは、そ
の言葉を心に留めて演奏
しています。同じ被爆地
浦上で『祈りの演奏』を
届けたいと念願が、52
年の歳月を経てやっと今
年かきました。広島
の世界平和記念聖堂と長崎
の浦上教会が祈りの音楽
でつながりました」と述
べた。



演奏者の中には被爆者
も2世もいる。この大き
な意義と喜びは、聖堂内
に響き渡った音と美しい
夕焼けと共に、原爆犠牲
者への祈りへと昇華した。

福島が長崎訪問

平和と未来について考える

8月7、10日、「長崎
と福島を結ぶ平和教育プ
ログラム」の一環で、福
島から6家族15人が長崎
を訪れた。これは東日本
大震災と東京電力福島第
一原発事故の放射能被害
により、首都圏に避難し
た子どもたちとその家族
の生活再建をサポート
する活動を行っている

団体、「き
らきら星
ネット」と
「子どもた
ちの保養と健康を考える
会」の企画によるもの。
「原爆と原発という同
じ原子力によってもたら
された大きな被害と痛

み、避難を長崎の皆様と
分かち合い、交流を通じ
て平和と未来について考
え、共につながりながら
生きていきたい」との願
いに応えようと、日本C
LCの長崎のメンバーを
中心に、教区評議会女性
部(日本カトリック女性
団体連盟の活動としての
支援)や西町教会信徒が
協力し、実施された。
参加者は、日本二十六
聖人記念館などの見学、出
津での川遊び、南山小での
平和学習の他、平和祈願
祭にも参列、「荘厳な雰
囲気を味わえて、とてもよ
かった」と喜びを語った。

— 寄付のお願い — 先祖伝来の信仰の宝を

皆さんの自宅には、御像や御絵、十字
架やロザリオ、メダイなどの信心用具
があり、大切に使用しておられると思い
ます。その中には、先祖代々受け継いでこ
られたものもあることでしょう。私たち
カトリック信者の信仰の目で見たら、
それらは素晴らしい信仰の宝物です。
長崎教区では「日本キリシタン歴史
博物館」(仮称)の設立に向けて、先祖
から伝えられた信仰の宝物を集めてい
ます。寄付してもよいとお考えの方が
いらっしやいましたら、ぜひ教区にお譲
りくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ】

カトリックセンター 岩本繁幸
Tel 095・846・4248

神と出会う イエス・キリストと出会う 自分と出会う

カトリック 通信講座

全7講座開講中!

どなたでも いつからでも どの講座でも
ご自分のペースでご受講いただけます。

神・発見の手引

常に呼びかけている神について、人生、自然などの具体例や哲学者の言葉を通して考えます。(全15講 受講料4,800円)

生きること・死ぬこと

現代社会の状況のなかで、「いのち」について考えます。健康と病気、産むこと、老いることなど。(全10講 受講料5,300円)

*他の講座については、ホームページをご参照ください。

お申し込み方法

郵便振替用紙に講座名をご記入のうえ、受講料を下記にお振り込みください。

振替口座番号 00170-2-84745

加入者名 オリエンズ宗教研究所

お問い合わせ・お申し込み

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322
URL <http://www.oriens.or.jp>
携帯サイト <http://www.oriens.or.jp/mobile/>
ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。

召命促進
委員会

召されていきます いつも

高校生召命キャンプ



場所を移し、曾根教会の信徒の方々が準備したバーベキューをはじめ、花火、肝試しなどで交流を深めた。

2日目は早朝から野外ミサをささげ、召命の恵みを求めて祈った。それから巡礼へと出発し、鯛之浦教会、大曾教会、中ノ浦教会、福見教会を訪問。主任司祭から教会の現状や歴史について話を聞くことができた。福見教会では、信徒が振る舞ってくれた五島うどんに、一同、舌鼓を打つ。

8月11・12日、「高校生召命キャンプ」が開催された。今年は上五島で行われ、県内各地から18人の高校生と10人の司祭・上五島の青年がスタッフとして参加した。

1日目は頭ヶ島で海水浴を楽しんだ後、青砂ヶ浦教会へ。主任の岩崎康彦師による召命の話に、高校生たちは熱心に耳を傾けていた。その後、曾根の「ふれ愛らんど」へ

9月です。言うなれば残暑です。学生時代は、やってくるなよ9月くん!」的気分でしたが、司祭となつた今や、早く来い来い9月ちゃん!!」的気分です……

さて、皆さんお気づきでしょうか? 緊急事態です! 9月の話でご機嫌を伺おうかと、はじめてみたものの、もののお……! ……なんにも話が出てこないのです。あまりの空っぽ感に自分でビクビク、いや、ビクビクしちゃいました。なのに、すでに書いたものがどれほど丸く過ぎて、まさに洗濯し過ぎたTシャツの首元ばりにデロンデロンな内容だったとしても、消去しようとしなないこの心意気! それだけでも受け取ってはいられないものでしょうか? ……ってムリですよ。僕もイヤですもん。

『すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて

召命親子キャンプ

7月28・29日、「召命親子キャンプ」が馬込教会(主任 岡秋美師・召命促進委員長)の協力ののもと、伊王島で行われた。4回目となる今年のテーマは、「(父)親の思い、子(母)の思い」。参加者は子ども14人、保護者9人、スタッフ18人の計41人だった。午後1時の開会式後、信徒・シスター・司祭それぞれから召命についての話を聞いた後、体育館に移動してレクリエーション、夜はバーベキューと温泉でお互いの交流を深め、夕の祈りと花火で1日目を終えた。

2日目は朝5時半に起床。6時からロザリオ・朝の祈り・ミサが行われ、ラジオ体操と朝食後、海水浴場へ。昼食は、池下等さん(馬込小教区議長)が働いている海の家で、



カレーや牛丼、ロコモコなどを美味しくいただいた。正午過ぎに海水浴から戻り、感想文作成と閉会式が行われた。

子どもたちからは「次のキャンプにも参加したい」という声が多数聞かれ、保護者の中には「自分の信仰を見つめ直すきっかけになった」という感想もあった。

長崎教区においても、召命は重要な課題となっている。この親子キャンプが、家庭の中で失われつつある祈りや信仰を親子で見つめ直す機会となり、召命の促進につながることを切に願っている。

教会の教えに基づくいのちの学び

人権・家庭特別委員会が主催

8月3日、神崎教会(主任 浜崎靖彦師)において、中学生と保護者を対象とした「いのちの学び」が行われた。台風接近による悪天候の中、佐世保地区の5教会から75人が参加した。

近年、子どもたちを取り巻く社会環境や生活様式が大きく変化している。いじめ・不登校・生活習慣病・薬物乱用・性

子どもたちが成長し、社会の一員としてよりよく生きるためには、論理観・道徳観の醸成や人間としての価値ある生き方、自尊感情の育成が必要である。それは学校教育だけでなく、教会の教えに基づき家庭内教育によって実現される。

今回の集いは、「キリスト教的価値観を持ち、知・徳・体・感性が調和

若者たちの交流を

南地区青年会がBBQを企画

7月20日午後5時から、若者の交流を目的とした定例(毎月第2日曜)の青年のためのミサが中町教会で行われた。

長崎南地区青年会(指導 司祭 金桐旭師)が主催した今回の集いでは、より多くの青年と交流す

るためバーベキューを企画、他地区の青年を含む約30人が参加した。なかなか炭火をおこすことができないなど、若者らしい経験不足もあったが、食事の他、抽選くじや参加青年の名前・所属教会・洗礼名を覚えて披露するなどのゲームも盛り込み、楽しみながら交流を深めた。

金師は「信仰生活は一人ではできない。神様の元でイエス様と一緒に遊んだり祈ったりする喜びと楽しさを、来て、見て、感じてくださるよう、この青年のミサに気軽に参加してほしい」と呼び掛けている。

みことばにふれて

岩下裕志神父
(浅子教会)



愛すべきこと、……を心に留めなさい」(フィリピ4・8)

このみことばが長崎コレジオの motto だったのです。当時、何とはなしに聞いていたんですが、いつの頃からかふ

とした時に思い出すんです。このみことばがあったから自分はやって来れたのか、このみことばで救われたとか、人生の指針になったとかそんな大層な思い入れでもなくて、ほんとにフワッと時々出て

(次回から中野健一 郎神父)



いごう園



したいのち輝くことも」の成長を目指して、教区人権委員会(川口昭人委員長)と教区家庭特別委員会(古木真理一委員長)が企画したもの。参加者

たちは、「いのちの誕生。神からいただいたかけがえのないいのち」について、川口師や古木師、酒井孝子氏(鹿児島純心大学特別講師・元看護師)の話を聞いたり分かち合いをしたりしながら、教会の教えに基づきいのちへの理解を深めた。

両委員会は、いのちの大切さ・人間尊重・神の教えに基づく異性観・結婚生活など、年代に応じた家庭内教育の充実を目指して、各地区・小教区でも同様の集いを開催したいとしている。

ネ黙示録を読む」10月5日(日)13時・16時、カトリックセンター。講師・澤田豊成師(聖パウロ修道会)。前売券800円・当日券1000円。申込先・教区生涯養成委員会。TEL 095・841・7731

▼135回クルシリヨ 10月10日(金)・13日(月)、イエズス会立山修道院。問合せ・長浦ヒロ子。TEL 095・871・2910

▼島原・天草殉教者記念の集い「同じ思い、同じ心」信徒発見150周年を前に」10月12日(日)13時・15時。①記念ミサ 原城本丸跡。②聖体行列 二ノ丸跡まで。問合せ・島原教会。TEL 0957・62・2952

純心聖母会島原修道院。TEL 0957・62・2092

感謝

一 寄 付

長崎カトリック神学院
● 辻町婦人部様(浦上)
● 深堀マサ子様(浦上)

右の方々から「寄付・ご芳志を賜りました。お礼」とご報告を申し上げます。

新聖堂建設に伴い納骨堂建立

納骨室分譲 予約受付中!!



1室 **55万円・60万円** 全240室

●風光明媚な深堀の丘の上にある静かな環境! ●車横付け・駐車場完備!

お問い合わせ
お申し込みは

カトリック深堀教会

長崎市深堀町5-272
☎ 095-871-3459
受付時間 10時~15時 (但し月曜日を除く)

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 10月16日(木)~22日(水) (10/1 締切)
- 11月13日(木)~19日(水) (10/29 締切)
- 12月11日(木)~17日(水) (11/26 締切)
- 1月15日(木)~21日(水) (12/24 締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102